

守田福松 長く満洲で医療に従事して、現地との融和に努め、中国要人からも信頼を得て行くが、最後は満洲建国支持に。

もりたふくまつ

三つの内乱・1876 = 熊本県で生まれる。

明治14年政変1881 = 5歳 :

内閣発足・・1885 = 9歳 :

帝国憲法発布1889 = 13歳 :

日清戦争始・1894 = 18歳 :

軍人の道に進み、騎兵になったが、

日露戦争始・1900 = 24歳 : 義和団事件で看護卒をつめたことから、医学を志すようになり、

日比谷公園・1903 = 27歳 :

日露戦争始・1904 = 28歳 : 熊本医学専門学校を卒業し、日露戦争には三等軍医として従軍。語学の才があり、ドイツ語はもちろん、中国語にも堪能だったことから、

日露戦争終・1905 = 29歳 : 撤兵に際して、現地から医師の招聘を依頼された乃木司令官から、石黒忠篤軍医総監の推薦で指名され、満鉄発足・・1906 = 30歳 : この年、奉天居留民会が結成される。\*法庫門衛生病院の顧問医となる。

知遇を得た乃木の日中親善を重視する意志を引き継ぎ、

韓国併合・・1910 = 34歳 : ロシアとの国境の町満洲里から始まったペストの流行が猛威を振るい、大逆事件判決1911 = 35歳 : 南満洲まで広がり、満鉄はもちろん、日本も積極的に医師を派遣、北里柴三郎が調査と会議のために奉天を

来訪するなか、父危篤にもかかわらず、現地での医療活動を優先、その活躍で清国から勲章を授与され、

明治天皇没・1912 = 36歳 : 満鉄の大連病院奉天分院が南満医学堂付属奉天病院になり、中国人居住地の奉天城内に診療所を設置、その所長に任命される。多くの中国人から信頼を得るようになり、

第一次大戦始1914 = 38歳 : モンゴル方面の鉄道敷設事前調査に医療・衛生医として同行した際、参加していた駒井徳三を中国人高官に紹介し、駒井もまた。その生き方を高く評価したことが知られている。

民本主義・・1916 = 40歳 : 満鉄病院を辞して、自ら開業すると、張作霖をはじめ政権の名だたる高官たちも通うようになる。当時、モンゴル当局に捉えられていた日本人馬賊薄益三も、そこに居合わせた中国人の知人に、自分が守田と友人だと伝えるや特赦されるほど、中国人の間で、名が広まっていた。

原敬首相暗殺1921 = 45歳 :

護憲三派圧勝1924 = 48歳 : 奉天高等女学校編「民国事情」に「民国の自然と民族性に及ぶ」の文を寄せ、日本人が中国人に接する態度に懸念している。満洲で勢力を確立した張作霖政権は、内戦を繰り返すようになり、そこでの衛生管理が問題になって助言を求められると、実際に戦地に赴いて指導、勝利に導き、衛生顧問に任命される。奉天軍閥が日本に派遣した軍関係医療の調査団の代表もつとめ、奉天での病院開設にも貢献するが、

治安維持法・1925 = 49歳 : 張作霖勢力の拡大を憂慮する日本は奉天派との関係が悪化、そこに、張作霖配下の有力な将軍郭松齢がクーデタを起こすが、体調の悪かったその郭自身から住診を依頼されていて、偶然クーデタの決起文を目にしてしまい、自ら説得し、日本側に知らせて中止を図るも郭が応じず決起、結局、張作霖側に捉えられ処刑されてしまう。心情的には、横暴を振るう張作霖への郭の反抗を理解していて、

共産党事件・1928 = 51歳 : 全満日本人大会で張作霖政権の排日行為を非難する陳情団を日本に派遣するが、奉天居留民会長としてその代表。その直後、日本軍が張作霖爆殺事件を起こすが、後を継いだ子の張学良は返って排日を強め、

満洲事変・・1931 = 54歳 : 満洲事変に至る。奉天特務機関長土肥原賢二が臨時市長になると、協力する現地日本人の一人として、衛生課長になる。満洲支配には中国人の協力が不可欠なため、親日派の大物于冲漢担ぎ出しの大役を任せられ、現地安定を目的とすることで意見の一致を見て成功、満洲建国につながって行く。

五一五事件・1932 = 55歳 : 帰国し、{満蒙問題研究資料}に「奉天の実際と今後」を寄せるなど、満蒙問題の啓発、満洲事変への理解に精力的にかかる同するも束の間、食道がんになり、満洲国建国大典の日に、没した。

北野剛「満蒙をめぐる人びと」、